

※今回、情報の追加・更新があったものには **NEW** のマークがついています

あ

アイ ピー ピー (IPP:Independent Power Producer)

★電力卸供給事業

当社は、四日市製油所隣接地区にて20万Kwの発電所を建設。2003年7月より中部電力向けに供給中。

IPIC

★International Petroleum Investment Company

1984年設立。アブダビ首長国政府が100%出資するエネルギー関連投資会社。

長期スパンでアブダビ首長国外の石油・ガス分野等への投資を行っている。当社の第三者割当増資を引き受け、増資後約20%の当社株式を所有。

アラ (ALA)

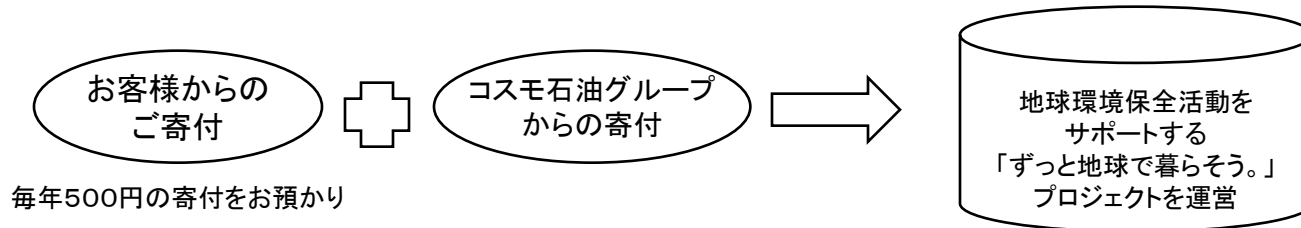
★5-アミノレブリン酸のこと。

天然の貴重なアミノ酸であり、生体内では葉緑素(クロロフィル)や血液中のヘムの原料として重要な役割を果たしている。植物の成長促進効果を始め、ガンの光動力的治療で使用されるほか、豚の貧血防止や魚の耐病性向上効果など、医薬動薬・飼料分野でも応用が期待されており、将来ALAは主要なアミノ酸に匹敵する巨大市場に育つものと期待される。当社はALAの安価な製造法を確立し、肥料・飼料分野、化粧品、健康食品、医薬品分野等さまざまな分野向けに供給すると共に、提携企業と共にこれらの分野での用途開発・販売にも参画している。

エコカード

★コスモ・ザ・カード・オーパス、コスモ・ザ・カード・ハウスの機能に加え、「環境保全参加」の機会を会員様に提供するカード。コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」、コスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」のこと。

★コスモ・ザ・カードのターゲットに加え、環境意識の高いお客様を獲得するのが目的。



※上記のほか、会員のお客様には、環境保全活動や寄付金の使途を報告するコスモ石油エコカード基金活動報告書を送付。

エコパワー株式会社

★2010年3月、株式会社荏原製作所から風力発電事業を営む子会社、エコ・パワー株式会社(以下エコ・パワー)の全株式(荏原製作所保有分の98.8%)を取得。エコ・パワーは風況のよい東北・北海道を中心に風力発電設備を所有。コスモ石油は2004年から山形県酒田市で「コスモ石油酒田風力発電所(1,500キロワット)」の営業運転を行ってきた。

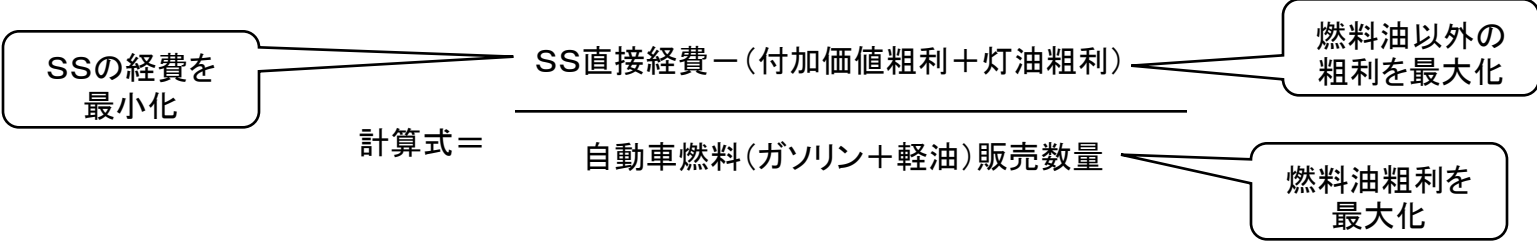
＜エコ・パワーの概要＞ (2012年度末)

- ・発電サイト数 29サイト
- ・設備基数 128基
- ・総発電能力 145,810キロワット

※エコパワー ホームページサイト(発電所一覧) http://www.eco-power.co.jp/hatudensho_ichiran.html

エス エス ナビ(SS NV)指数

- ★特約店がSSの体質強化(低マージン下でも利益を上げられる体質づくり)するための指数のこと。
- ★SSの経費を最小化し、同時に付加価値粗利(車検、オイル交換、洗車、タイヤ・バッテリー・アクセサリ販売などでの粗利)及び、ガソリン・軽油販売を最大化する方向性を把握させる目的。
- ★指数は小さければ小さいほど(マイナスもありうる)、強いSSであると言える。



エネルギー供給構造高度化法

- ★エネルギー供給事業者による非化石エネルギー源の利用及び化石エネルギー原料の有効な利用の促進に関する法律。
- 電気やガス、石油事業者といったエネルギー供給事業者に対して、太陽光、風力等の再生可能エネルギー源、原子力等の非化石エネルギー源の利用や化石エネルギー原料の有効な利用を促進するために必要な措置を講じる法律。

(出所: 経済産業省 資源エネルギー庁)

エフ(F)指数

- ★特約店がSSを管理(コスト意識)するための指数のこと。
- ★人件費に対する付加価値粗利(車検、オイル交換、洗車、タイヤ・バッテリー・アクセサリ販売等での粗利)割合を把握し、コスト意識を高める目的。
- ★指数は大きければ大きいほど、付加価値販売に強いSSと言える。

$$\text{計算式} = \frac{\text{付加価値粗利}}{\text{人件費}} \times 100$$

- 例) F指数 100%.....>付加価値利益を人件費が相殺
- F指数 120%.....>人件費を上回る付加価値販売 =強いSSであるといえる。

エフ・シー・シー(FCC: Fluid Catalytic Cracking Unit)

- ★流動接触分解装置のこと。
- ★いわゆる二次装置のことであり、軽質留分(主にガソリン留分)をより多く生産するための設備。

エー・ピー・アイ(API)

- ★米国石油協会(American Petroleum Institute)によって定められた原油の密度を示す尺度。API度の数値が大きいほど、より軽質で付加価値の高い白油留分(ガソリン・灯油・ジェット燃料・軽油)が多く取れることを示し、原油価格も割高となっている。



カーケア商品

- ★車検、修理、オイル交換、洗車、タイヤ・バッテリー・アクセサリ・パーツなど車周りの商品およびサービス。
＝付加価値商品

原単位、SS原単位

- ★1SSあたりの1ヶ月の自動車用燃料油販売量のこと。

コーカー(重質油分解装置)

- ★堺製油所において新設された装置(設備投資額:約1,000億円、運転開始:2010年度)。コーカーと合わせて「分解油水添脱硫装置」も新設。当該装置群によりアスファルト留分を原料にナフサ、ジェット燃料、軽油を生産する。原油の重質化(重軽格差の活用＝相対的に安い重質原油を投入しつつ、従来通りの白油得率を維持)による原料コストの削減や、重油から中間留分への生産スイング(白黒格差の活用＝より付加価値の高い白油得率の向上)により国内の需要構造の変化に対応するとともに、精製マージンの拡大などにより、収益性の向上が期待される。

<設備の概要>

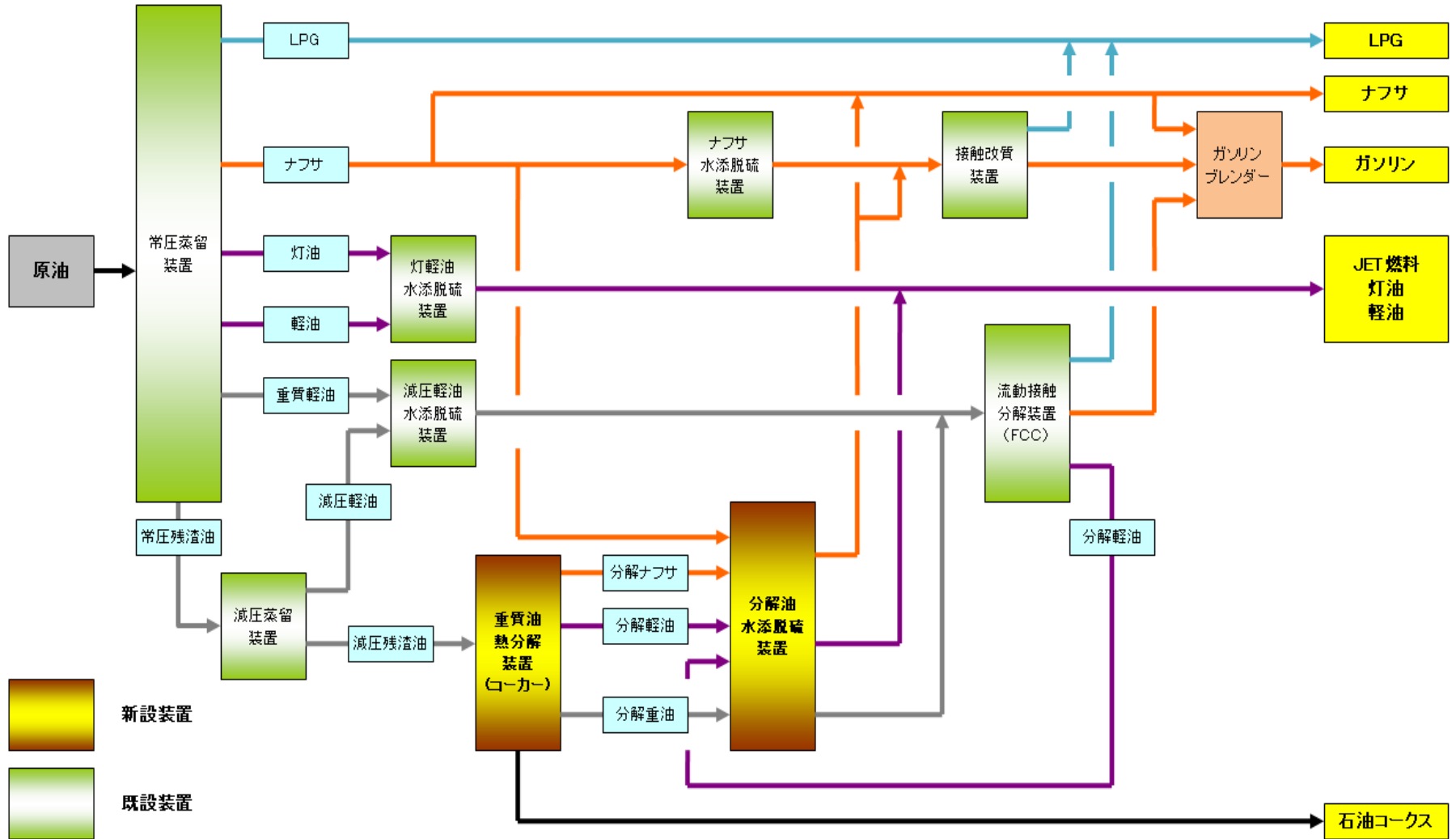
- | | |
|-------------------|---------------|
| (1) コーカー(重質油分解装置) | 処理能力 29,000BD |
| (2) 分解油水添脱硫装置 | 処理能力 42,000BD |

<生産能力の概要>

ナフサ:25万KL/年、ジェット燃料:70万KL/年、軽油:35万KL/年、石油コークス:40万t/年

コーカー<装置図>

精製工程



コスモ・ザ・カード・オーパス

★2006年6月より、イオンクレジットサービス(株)との提携カード「コスモ・ザ・カード・オーパス」を発行。

★年会費無料の国際ブランド(VISA Master Card, JCB)付きカードがラインナップに加わることにより、お客様の多様なニーズに対応。

コスモ・ザ・カード・ハウス

★コスモ石油が独自に運営する、コスモ系列SS限定のクレジットカードのこと。

★お客様、特約店(SS)、コスモ石油3者それぞれに大きなメリットがある

お客様 : 即時発券、キャッシュレスの支払い、プレゼントへの交換、(コスモ・ガソリンマイレージの項を参照ください)、キャッシング他、多くの特典がある。

SS : SSオープン時に積極的に発券することにより、お客様に継続的にご利用頂ける(必ずコスモのSSを選んで頂ける)しくみが出来る。

POSデータ活用でのマーケティングにより、SS体質強化、販売数量増につながる。

決済業務の軽減ができ、信販系カードに比べ安価な手数料である。

コスモ石油 : マーケティングツール、SS体質強化によって販売量アップ、カード手数料収入が期待できる。

コスモビークルリース

★当社グループで車の調達から車検・保険、給油の

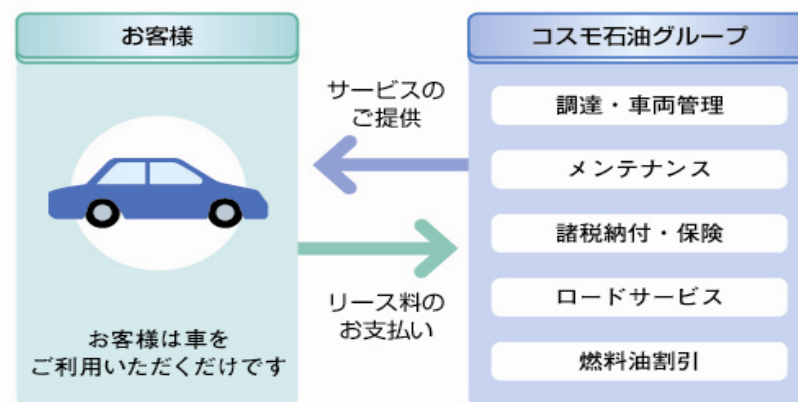
割引など車周りのサービスを提供し、お客様は

月々一定のリース料をお支払いいただく仕組み。

★燃料油の割引やメンテナンス持ち込みなど独自のサービス

についてはビジネスモデル特許を申請している。

■ コスモビークルリースのシステム



お客様には月々一定のリース料をお支払いいただくだけで、面倒なメンテナンスの管理や税金のお支払いはコスモ石油グループで実施します。

固定価格買取制度 (Feed-in Tariff , FIT)

★再生可能エネルギーの利用を促進することを目的に制定された制度。

★ 既存設備も含め、再生可能エネルギー電力を固定価格(調達価格)で決められた期間(調達期間)電力会社が買い取る仕組み。

★風力発電による発電量の調達価格および調達期間

・区分20kW以上 …… 1kWあたり税込23.10円(税抜22円)、調達期間20年

(出所:経済産業省 資源エネルギー庁「再生エネルギーの固定価格買取制度」24年7月発表)

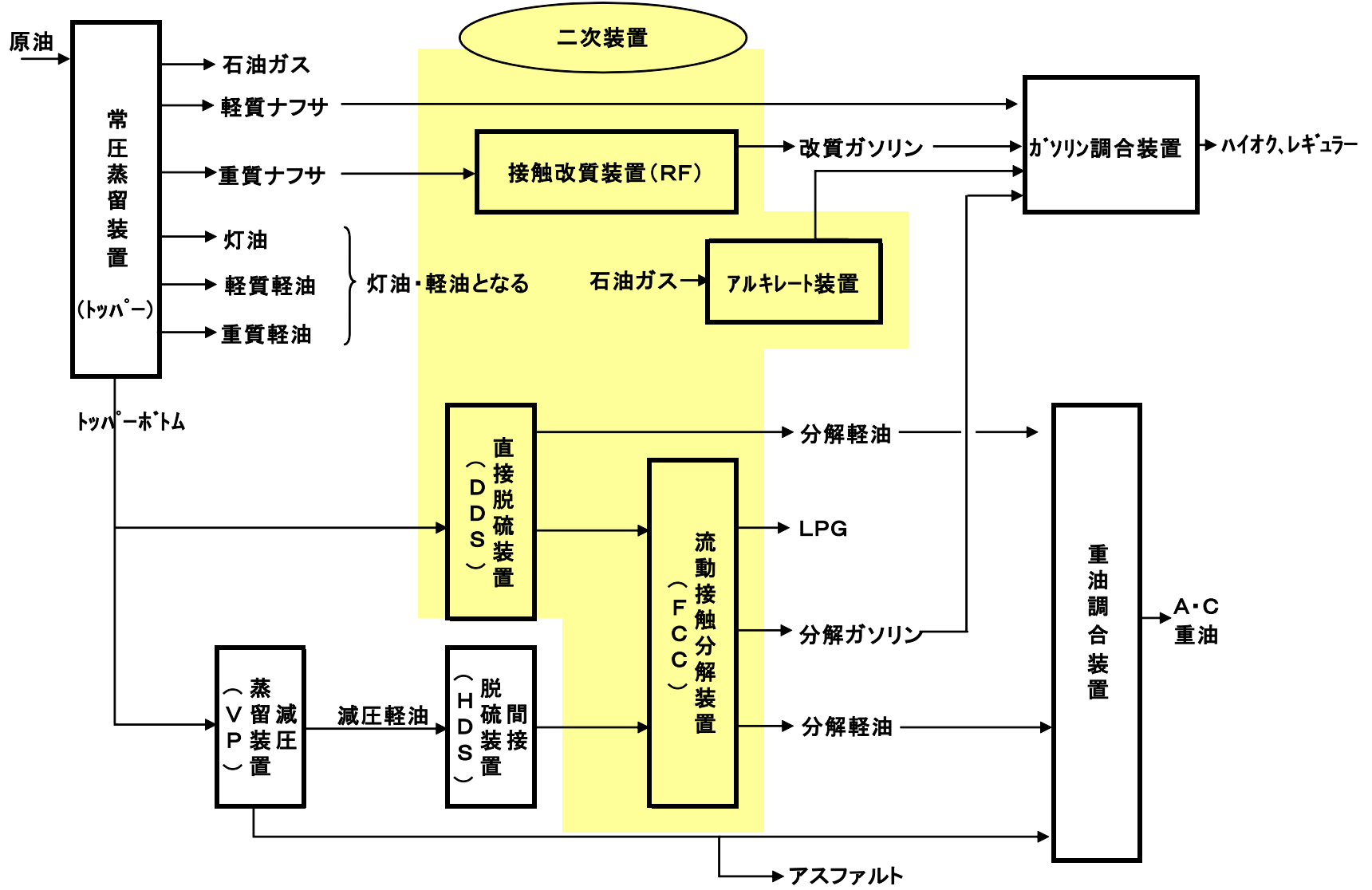


サルファーフリー ガソリン・軽油

★硫黄分が10ppm以下のガソリン・軽油のこと。

重油(直接・間接)脱硫装置

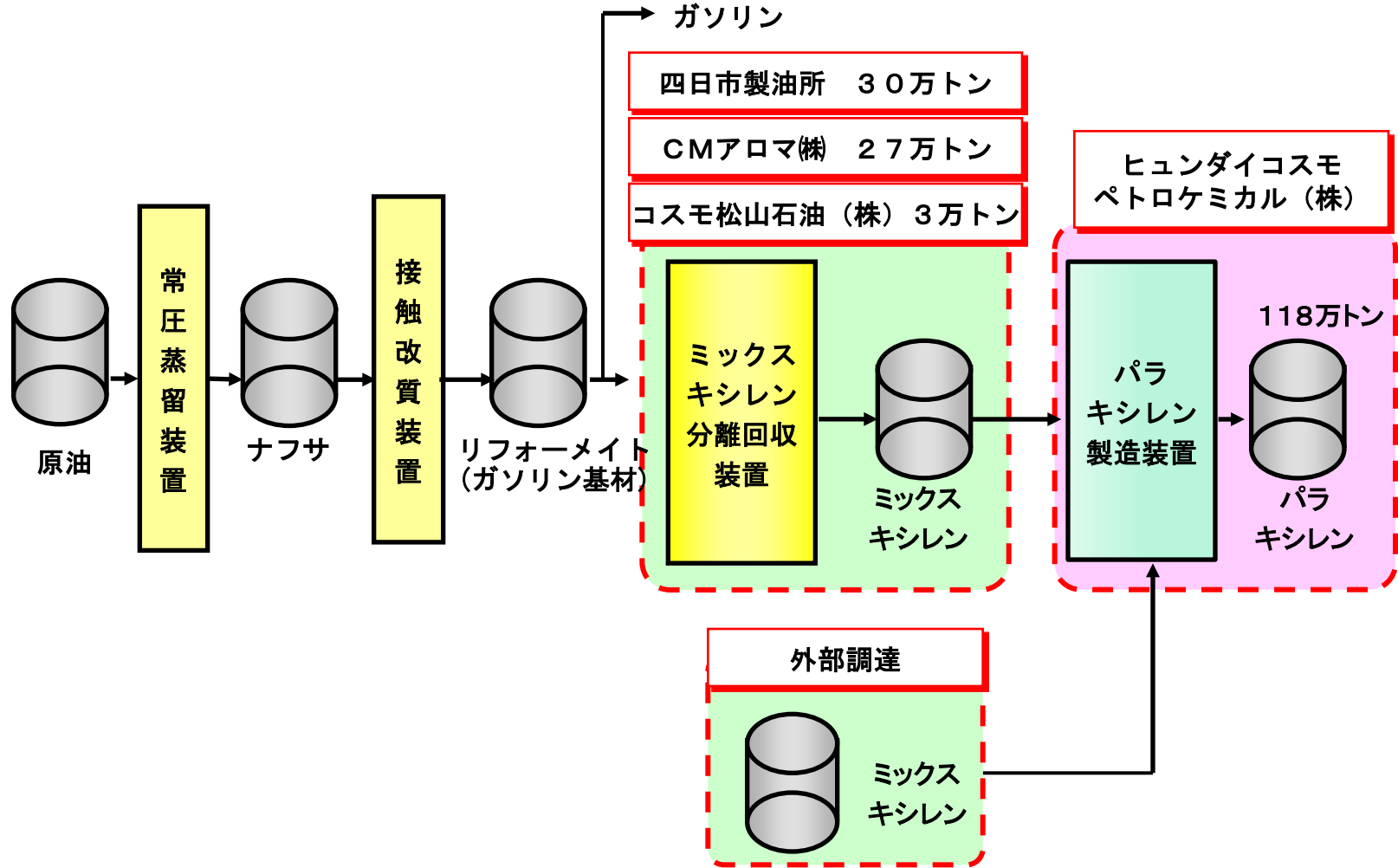
★常圧蒸留装置からのボトム(重油)から硫黄分を回収するための装置。



CM(シー エム) アロマ 株式会社

★丸善石油化学との合併会社で、ミックスキシレンに関する原料調達、製造、貯蔵、販売を行う。

設立：2005年4月1日、資本金：1億円、出資比率：コスモ石油65% 丸善石油化学35%



総合エネルギー株式会社

★2012年11月、双日株式会社から双日エネルギーの全株式(双日保有の97.08%)を取得。

2013年2月より、総合エネルギー株式会社に社名を変更。双日エネルギーがもつ多様な仕入れリソース、顧客基盤、人材、ノウハウを取り込み、当社とのシナジー効果を発揮させることで事業強化を図る。

《ロゴマーク》



た

脱硫触媒

★脱硫は原料油に含まれる硫黄分(S)に、水素(H)を反応させて、硫化水素(H_2S)の形で取り除くのが一般的。
この化学反応を促進させるために触媒が使用される。

直接脱硫装置

★重油の水素化脱硫装置の1つ。
★触媒の充填された反応塔で常圧蒸留装置(トッパー)の残渣油と水素を高圧高温で反応させ、原料中の硫黄分を硫化水素に変えて脱硫する装置。

トッパー(Topper:Crude Oil Distillation Unit)

★蒸圧蒸留装置のこと。一般に製油所の処理能力は、トッパーの一日の処理能力で示される。

バイオガソリン

★植物を原料とするバイオ燃料は原料である植物が生育する際、光合成によってCO₂を吸収しているため、燃焼によってCO₂を排出しても、大気中のCO₂を増加させない(カーボンニュートラル効果)、環境にやさしい燃料。

2010年には石油業界としてETBE(エチル・ターシャリー・ブチル・エーテル。エタノールとイソブテンにより生成される燃料)を84万KLを導入することを決定。

ハウス・カード

★コスモ石油が独自に運営する、コスモ系列SSのみで使用可能なコスモ・ザ・カード・ハウスのこと。

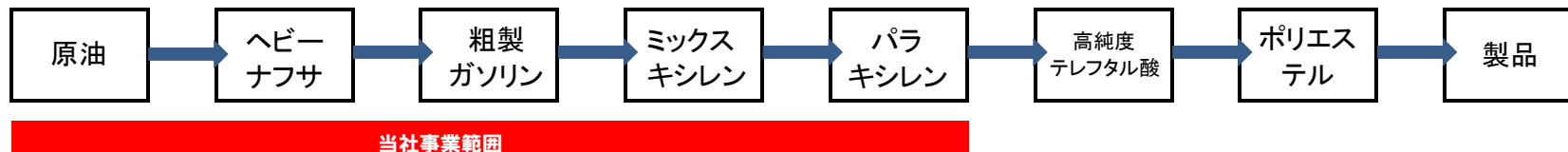
発券枚数

★コスモ・ザ・カードの累計発券枚数のこと。脱会者の人数も含む。

パラキシレン(PX)

★ペットボトルやポリエステル繊維などの原料となる芳香族製品。

* 原油から製品までの工程



※ミックスキシレン CMアロマ株式会社の項を参照ください。

※パラキシレン ヒュンダイオイルバンク株式会社・ヒュンダイコスモペトロケミカル株式会社の項を参照ください。

ヒュンダイオイルバンク株式会社(HDO)

★韓国の石油精製・販売会社。1964年設立。原油処理能力390,000BD。

IPICとの共同事業の一環として、2008年4月に当社と石油事業包括協力覚書を締結。2009年6月にパラキシレン事業協業化のための合弁会社(JVC)設立に向けた基本合意書を締結し、同年10月にパラキシレン事業の合弁事業契約を締結。

同年11月に合弁会社(ヒュンダイコスモペトロケミカル株式会社)を設立。

※1 ヒュンダイコスモペトロケミカル株式会社の項を参照ください。

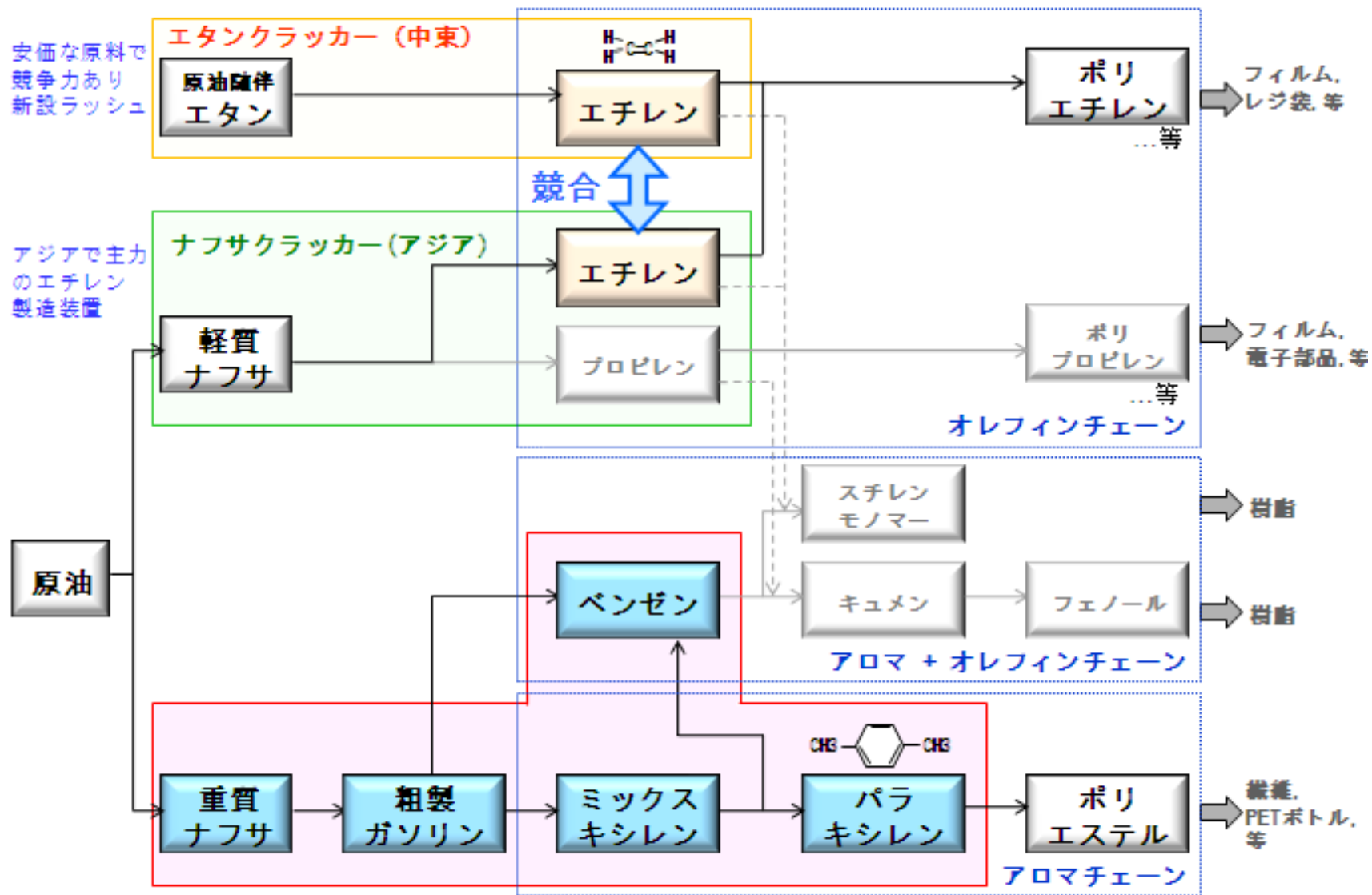
ヒュンダイコスモペトロケミカル株式会社 (HCP) ※HCペトロケムからの名称変更

★2009年11月、ヒュンダイオイルバンク株式会社(HDO)と共に立ち上げた合弁会社。

出資比率は、コスモ:HDO=50:50。2010年2月にHDOより既存のパラキシレン装置(38万t/年)の譲渡を受け生産販売を開始。2013年1月から新設パラキシレン装置(80万t/年)の商業生産を開始し、年間合計118万トンのパラキシレンを生産中。

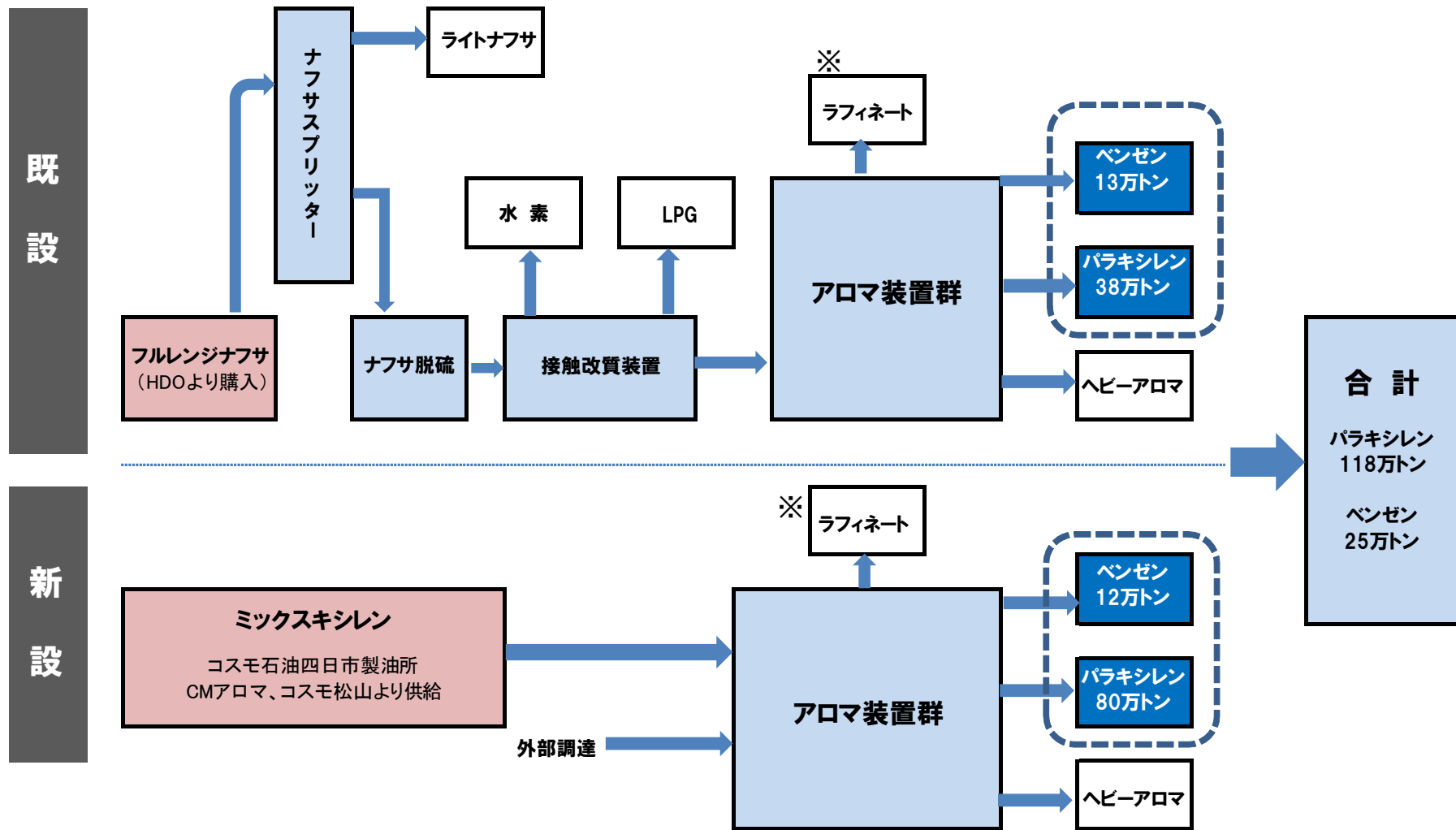
※1 ヒュンダイオイルバンク株式会社(HDO)の項を参照ください。

* オレフィン製品、アロマ製品の製造概念図



部分がヒュンダイコスモペトロケミカル株式会社 (HCP) の取り組み範囲

当該合併事業におけるパラキシレン製造装置構成



※ラフィネート 溶剤抽出の過程において溶剤に溶けずに残る部分の総称

風力発電

※1 エコ・パワー株式会社を参照ください



ミックスキシレン(MX)

★パラキシレンの原材料。パラキシレンの材料となるミックスキシレンは主に石油メーカーの製造する改質油から生産される。
⇒パラキシレンの項を参照ください。



有効枚数

★コスモ・ザ・カードの入会者数から脱会者数を引いた数のこと。
★実質の会員様数。